夢 駒澤会だより

第 44 号特別号
（令和 8 年度奨学金授与式報告）
令和 8 年 11 月 6 日
駒澤大学駒澤会 発行

7 月 14 日に開催いたしました奨学金授与式につきまして、第 44 号（7 月 30 日発行）への掲載が間に合わなかったため、このたび第 44 号の関連企画として『特別号』を皆様にお届けいたします。

37 人の学生に駒澤会から奨学金

一生懸命になれることを見つけ、一生懸命やるために

駒澤会からの学生への奨学金授与式が 7 月 14 日に本部棟で行われました。

今年度は 7 つの学部からあわせて 182 人の応募があり、成績をもとにした審査の結果、37 人に 1 人当たり 8 万円を贈ることになりました。応募は去年より 46 人多く、授与者は 3 人少なくなっています。

授与式には学生 26 人が出席し、初めに駒澤会の山田直重会長が「駒澤会は、お子さんが卒業した後も大学や学生さんの支援などを続けていこうというメンバーが集まって、55 年前から始まった団体です。その中で学生に奨学金を贈る活動をしようと、基金の積み立てを行ってきました。ことしもここで奨学金を贈ることができるのは、我々の先輩方のご努力や、大学のご理解とご協力があってのもので、感謝も込めて授与式を行いたいとと思います」と挨拶しました。



山田会長ご挨拶

続いて村松哲文駒澤大学学長が、「駒澤会というのは卒業生のお父さんお母さんたちの会で、奨学金には、娘や息子の後輩たちが一生懸命勉強して、社会に巣立ち、役に立ってもらいたいという気持ちが込められています。最近、何になったらいいかわからない、どの職業に就いたらいいかわからないって言う学生がたくさんいます。私は『自分の才能に気づこう』というふうに言うのです。才能って何かというと、自分が一生懸命になれること、夢中になれることで、それが進むべき道ではないかなと思います。一生懸命できることを一生懸命やれば、きっと何かが見えてくると思いますので、ぜひ早く見つけてもらいたい。その手助けを駒澤会の皆さんがしてくださるということですので、ぜひその期待に応えていただきたいと思います」と学生を激励しました。



村松学長から学生の皆さんへメッセージを頂戴しました

そして出席者 1 人 1 人に、山田会長が決定書を手渡しました。

本年も無事に奨学金を
お渡しすることができました

温かいご支援
ありがとうございます



奨学金を授与された
学生の皆さんとの記念写真

駒澤会奨学金によせて
～学生の皆さんからのメッセージ～

文学部
英米文学科４年

古澤颯椰さん



この度は、駒澤会奨学金に採用していただき、誠にありがとうございます。そして、これまでの私の学業への取り組みをこのような形で評価していただけたこと、大変嬉しく存じます。

今回いただいた奨学金は、就職先で必要となる資格の取得費用に充てさせていただきます。この奨学金によって経済的な負担が軽減されたことで、これまで以上に勉強に専念できる環境を整えることができるようになりました。今後はより一層勉学に励み、専門知識と実践力を身につけていく所存です。

振り返れば、この ４ 年間はたくさんの方々に支えていただき、大変充実した大学生活を送ることができました。これからも周囲への感謝の気持ちを忘れず、少しでも社会に貢献できる人材となれるよう、精進してまいります。最後になりますが、温かいご支援を賜りました駒澤会の皆様に深く感謝申し上げます。

グローバル・メディア・スタディーズ学部
グローバル・メディア学科３年

張　雪猛さん



この度は、駒澤会の皆様の温かいご支援により奨学生として選出いただきましたこと、心より感謝申し上げます。私の将来の目標について書かせていただきます。

大学の授業では、英語や経済、情報など多様な分野について学びました。その中でも、日常生活と深く関わる情報技術やプログラミングに興味を持ちました。プログラムを思いどおりに動かす楽しさや、身近なサービスが情報技術によって支えられていることを知り、IT 分野への関心が深まりました。

現在は情報系のゼミに所属し、IT に関する知識をさらに深めています。将来は、大学で学んだ知識を生かし、人々の生活をより便利にするシステムやサービスの開発に携わる仕事に就きたいと考えています。

この度のご支援により、学びを深めるための大きな励みをいただきました。社会に貢献できる人材へ成長していきたいと思います。本当にありがとうございました。

文学部　地理学科　地域文化研究専攻２年　**斎藤　陽太さん**

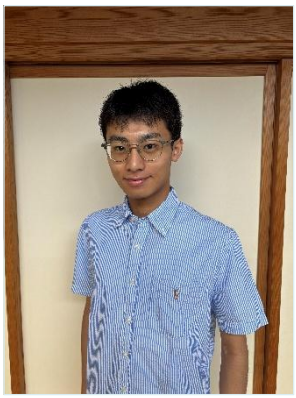


駒澤会奨学金の奨学生となって

私は、駒澤会奨学金を受け取れることに感謝しています。

私は、受け取った奨学金を台湾での短期語学セミナーの生活費として使用しました。台湾での生活は日本とは違うことが多かったのですが、様々な台湾文化に触れたことで新たな世界が広がったように感じられます。特に、中国語での会話はわからないと感じてしまうことも多くありましたが、3 週間のセミナー期間で聞き取ったり、話したりする能力が付いてきたと感じました。

この経験から、さらに中国語の学習に励み、中国語で円滑なコミュニケーションを図れるようにしたいです。



経営学部　経営学科２年　**馬場　亮幸さん**

駒大生の一人として

駒澤会奨学金に支援くださっている会員の皆様、この度は誠にありがとうございます。心より御礼申し上げます。

私は経営学部経営学科に所属しています。奨学金受賞の話を受けてからは、これまで以上に学ぶことへの責任と感謝の気持ちを持ち、日々の学習に取り組んでいます。今回いただいた奨学金は自身の知見をさらに広めるための書籍の購入などに充てていきたいと思います。

この駒澤大学という学び舎は自分自身を高めていく上でこれ以上にない程最適な環境だと思っています。毎日熱心に講義してくださる先生方、共に切磋琢磨する友人たち、その他私たち学生に寄り添ってくださる充実した学習支援。今回の受賞はこれらすべての賜物だと思っています。

改めまして、この度は温かいご支援いただきありがとうございます。奨学金受給者としての自覚と責任を持ち、周りの学生たちの模範となれるよう、より一層努力してまいります。

経営学部　経営学科２年　**久保　瑠璃さん**



奨学金を活用した今後の学びについて

この度は、駒澤会奨学金という貴重な機会をいただき、心より感謝申し上げます。大学で学ぶためには、授業で使用する教材や参考書など、さまざまな費用が必要になるため、奨学金によるご支援を大変ありがたく感じています。

いただいた奨学金は、大学の授業で使用する教材や専門的な知識を身につけるための本の購入など、今後の学習に役立てたいと考えています。現在は大学 2 年生で、まだ具体的な研究活動には取り組んでいませんが、これから専門的な授業が増えていく中で、授業で学んだことをさらに深く理解するためにも、多くの本や資料に触れていきたいと思っています。また、資格取得や将来に向けた勉強にも活用し、自分自身の知識や能力を少しずつ高めていきたいです。

今回いただいたご支援を無駄にすることなく、日々の学業に真剣に取り組み、大学生活で得られる学びを大切にしていきたいと思います。そして、将来は大学で身につけた知識や経験を社会に生かせる人になれるよう努力していきます。

改めまして、私たち学生の学びを支えてくださっていることに深く感謝申し上げます。本当にありがとうございます。

法学部　法律学科３年　**三田　希美さん**

謝辞

本年度、駒澤会奨学金制度を利用させていただきました。
まずは、ご支援いただいたことへの感謝を申し上げます。
私は、大学院への進学を考えるにあたり、学力面と金銭面の双方で悩んでおりました。
自身の学力では、私立大学も視野に入れておきたいところ、入試費用のみならず入学金のことも考えると、いち学生の経済力では断念せざるを得ない状況でした。
もちろん、自身でもアルバイト等で準備していたものの、学業との両立が大変厳しく、本分が勉学である学生としては本末転倒な生活になりつつありました。
そのため、奨学金制度を通じて金銭的な援助をいただけたことで、学業に専念できるようになり、また、進学先の選択肢も広げることができました。
今後の入試に向け、悔いのないよう勉学に励む所存です。
この度は、誠にありがとうございました。

経済学部　商学科４年　**海津　ありすさん**



ご支援への感謝と今後の挑戦

この度は、温かいご支援を賜り、心より感謝申し上げます。
来年に就職を控える中で、私は大学で専攻している会計学の集大成として「日商簿記２級」、および就職先の実務で戦力となる「MOS 資格」の取得を目指しております。頂戴した奨学金は、これらの講座受講費、教材費、受験料として大切に活用させていただきます。
奨学金のおかげで経済的な負担が軽減され、資格取得に向けた勉強に一層専念できる環境が整いました。この支援を糧に学びを深め、将来の選択肢や活動の幅を広げていきたいと考えております。
将来的には、培った知識と豊かな知見を活かして社会に貢献できる人材となるよう、今後も精進してまいります。温かいご支援、本当にありがとうございました。

文学部　地理学科　地域環境研究専攻４年　**浅見　彩加さん**



ご支援への感謝と今後の研究について

この度は、駒澤会奨学生に採用していただき、誠にありがとうございます。現在、私は文学部地理学科に所属し、卒業論文の研究を行っております。卒業論文では、福島県猪苗代湖周辺の地形発達について研究しており、現地調査や地形データ分析を通して、猪苗代湖周辺がどのように形成されてきたのかを明らかにすることを目的としております。いただいた奨学金は、研究に必要な現地調査や資料収集等に大切に使わせていただきます。駒澤会の皆様からのご支援を励みに、研究に精一杯取り組み、より良い成果が得られるよう努めてまいります。改めまして、この度は駒澤会の皆様からのご支援に、心より感謝申し上げます。



【駒澤会ホームページのご案内】

駒澤会　検索



スマートフォンは
こちらからアクセス→

駒澤会だより　第 44 号特別号（令和８年度奨学金授与式報告）
発行日：令和８年 11 月６日　〒154-8525 世田谷区駒沢１－23－１
発行者：駒澤大学駒澤会広報部　TEL：03-3418-9189 ／ Mail：komazawakai@komazawa-u.ac.jp